

留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからこんなことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちの留学体験談を紹介します。

ほんの少しの勇気が転機となる

私はイギリスのヨークセントジョン大学に約半年間留学しました。ヨークはロンドンから電車で2時間ほどのところにある周囲を城壁で囲まれた歴史ある町です。英語圏への留学はもともと将来の夢を叶えるために計画していたのですが、大学で初めて触れたイギリス英語に魅力を感じて決意を固めました。

留学中は教育学やメディア学など幅広く学びました。はじめの頃は英語力に自信がなく、自分から誰かに話しかけることがなかなかできませんでした。1ヶ月ほど経った頃、このままではいけないと考えを改めて、勇気を出して声をかけると、先生や周りの学生はそんな私のことを温かく迎え入れてくれました。これをきっかけに大学でも私生活でも様々な人と意見を交わすようになり、多様な価値観に触れるなかで視野が広がりました。留学後、就職活動をして、やりたかった仕事に就くことができました。そこにたどり着くまでに留学中に身につけた「自ら行動を起こす勇気」に何度も助けられてきました。留学で学べることは語学だけではなく、留学中に身につけたことはこれからも私を支えてくれると確信しています。

清水 智穂 さん ● 4回生 ● 交換留学

念願のドイツ留学

私はドイツのアウクスブルク大学に半年間留学しました。アウクスブルクは、ミュンヘンから電車で1時間ほどのドイツの南西部に位置する古い歴史をもつ街です。アウクスブルク大学は県大より規模が大きく、世界各国から多くの留学生がやってきます。日常生活では留学生同士でドイツ語を話していたため、8割はドイツ語を、2割は英語を使用していました。しかし日常生活とは異なり、中級レベルのドイツ語の授業では、英語と辞書を使うことが禁止されていて、思った以上に過酷な環境でした。留学生仲間と支えあい、高度なカリキュラムを乗り越えることができました。12月は町中がクリスマス仕様になり、幅広い世代の方が楽しんでいました。たくさんのおいしい食べ物が味わえるクリスマスマーケットが大好きになり、週に何度も通っていました。他の都市のクリスマスマーケットも訪れましたが、本当に地域色豊かでした。当初1年間の留学を予定していたにもかかわらず、新型コロナウイルスの影響で半年早く帰国することになり、挑戦したいことはまだまだたくさんありましたが、やれることには最善を尽くしたので、高校生のときより念願だった留学生生活を体験できて後悔はありません。

中村 百花 さん ● 2021年度卒業 ● 交換留学

一人ひとりの個性を認識することの大切さ

私はフランス北部にあるリール政治学院に留学していました。この大学ではフランスの政治や基礎的な経済学、社会問題などについて学びました。私は当初フランス語がほとんどできない状態でもフランス語の授業に参加していたため、語学についてはかなり苦労しました。しかし、私よりもフランス語ができる留学生の友だちに授業の内容について教えてもらったり、空いた時間に一緒に勉強したりして、なんとか乗り越えることができました。友だちとは、リールに近い都市を観光で訪れたり、ご飯を一緒に作って食べたりして、勉強以外にもとても楽しい時間を過ごしました。ほとんどの留学生たちは英語でコミュニケーションをとっていましたが、私たちはフランス語で話すようになっていました。友だちは私の拙いフランス語を否定せずに、優しく接してくれました。留学中、さまざまなルーツを持つ人と接するからこそ、「〇〇人」を強く意識することが多くありました。しかし、改めて感じるのは、人を枠組みで判断するのではなく、一人ひとりの個性を認識することの大切さです。国籍や人種、ジェンダーなどによる差別が絶えない今日、このような視点をリアルな体験をもって得られたことは、とてもありがたいことでした。

上田 莉沙子 さん ● 2021年度卒業 ● 交換留学



協定校等の具体的な留学先



留学は他国の言語や文化を学ぶことができるだけでなく、自分や自国の文化としっかり向き合える貴重な機会を提供してくれます。そのため国際コミュニケーション学科では2回生の後期から留学することを推奨しています。期間は長期留学(9~12ヵ月)・中期留学(3~6ヵ月)・短期語学研修(3~8週間)があり、英語圏だけでなく、ドイツ、フランス、中国、韓国、モンゴルなど履修した外国語科目に合わせて留学先を選ぶことができます。また協定校以外への認定留学制度もありますので、ぜひ自分に適した留学先を見つけて異文化を体験してみてください。

派遣留学



「良い」イングリッシュスピーカーを目指して

私が留学したビクトリア大学語学学校では、初めにレベル分けテストが実施されます。その結果に基づいてクラス分けがされるため、自分の実力に見合った授業を受けることができます。また、様々な国から幅広い年齢層の人たちが集まってくるので、各人各様のアクセントをもった英語や自分には考えつかないような意見が聞けるという貴重な体験を得ました。

学校では英語上達のためのワークショップやシステムが多数用意されていました。中でも私は、ネイティブスピーカーのボランティアの方々とお話できるEnglish Learning Centreをよく利用していました。母語話者の発音や頻出単語を聞けるのと同時に、多様な背景をもつ方たちとお話していると本当に楽しくて、より学びたいという気持ちが高まりました。

「語学学校」という肩書きにふさわしい正しい英語を学べるだけでなく、様々なことに対して自分の中の引き出しをたくさん増やせたことが自信に繋がりました。ビクトリアに留学したことで、ただ英語を話せるだけでなく「良い」イングリッシュスピーカーへの第一歩を踏み出したと思います。

山田 菜桜 さん ● 2021年度卒業 ● 派遣留学

助け合いの大切さを再認識

私は、ミズーリ州にあるコロンビアカレッジに留学しました。私が過ごしたキャンパス周辺にはダウンタウンがあり、休日でも出かけられる場所がたくさんあり充実しています。大学は本当に国際色豊かで、現地の人に限らず韓国、ウクライナ、ネパール、スペインなど、列挙しきれないほどの様々な国の学生と関わることができました。一番思い出されるのは本当に多くの人に助けられたということです。怪我をしたときに応急セットをくれたり、車と一緒に乗せて買い物に連れ出してくれたり、留学中にはちょっとしたことであっても大きな支えとなり、胸が熱くなりました。留学中は何事も自分から行動しなければ始まりません。しかし、同時に計り知れないほどの不安もあります。そんな時に助けてくれる人のありがたみを知り、帰国後は留学生支援にさらに力を注ぎたいと思うようになりました。「思いやり」の大切さは意外にも留学を体験して改めて痛感することになります。

岡 菜里奈 さん ● 4回生 ● 交換留学

自分の「やってみたい」が叶う留学

私はオーストラリアのシドニー工科大学に留学しました。留学開始直後にコロナが流行し始めたために、2ヶ月の滞在しかできず、予定していた残りの期間は日本に戻りオンラインで留学先の授業を受けるという形になりました。現地に滞在できたのは短い期間でしたが、様々な経験を経ることができ、充実した留学生活だったといえます。シドニーはオーストラリア最大の都市で、自分が「やってみたい」と思うことが挑戦できる環境が整っています。少し電車やバスで移動すると、息を飲むほどの美しい海や山、そして大きな滝など、オーストラリアならではの大自然も体感することができます。私は趣味でストリートダンスをしており、シドニーでも大学のダンス部に入ったり、レッスンに通ったり、ダンサーが集まる場所で国籍や言葉の壁を超えて一緒に踊ったり、自分の「やってみたい」ことを全力で楽しむことができました。大学は学生数が2.5万人ほどのモンスター校で、数多くの学部・サークルがあり、学生の国籍も多様なので、日本ではできないユニークな体験や多くの出会いがあり、可能性は無敵大です。せっかく留学するのなら、勉強はもちろんですが、自分の「やってみたい」ことができる場所を選ぶのも大事だと思います。

内田 大雅 さん ● 2021年度卒業 ● 交換留学

楽しもうとする姿勢

留学先の光云大学は大都会ソウルの郊外にあり、どこでも滋養泉立大学と似たような雰囲気を感じさせてくれる大学です。中国、ベトナムをはじめ、そのほか多くの国から来た留学生と交流できるグローバルな大学でもあります。

正直なところ、留学を開始して2ヶ月ほどは退屈に感じながら過ごしていました。もしかしら、知らず知らずのうちに留学すれば無条件に楽しくなるという幻想を抱いていたのかもしれない。この状況を打破するために国際交流サークルに入ることになりました。サークルには人数制限や参加資格が設けられていて書類審査と面接がありましたが、何とか無事に合格し、今では有意義な留学生活を送ることができています。このサークルで出会った友人は一生の宝物といえるほどになりました。もし私がサークルに参加していなければ、留学生活が色あせてしまったことでしょう。みなさんも自分から進んで楽しもうとする姿勢で学生生活や留学生活が送れるように願っています。

新家 雷我 さん ● 4回生 ● 交換留学